

ひょうご事業改善レビュー外部委員会について

事業の改善を図ろうとする6事業について、有効性、効率性の観点から事業改善を図るため、それぞれの委員の専門的見地に基づきご意見等をいただきました。

今後、事業所管課において、いただいたご意見等を踏まえ、予算編成を通じて改善を実施します。

■開催日程

令和6年8月20日 全1日(3.5h)

■外部委員会意見

- ・別紙レビューシート参照 ※URL <https://web.pref.hyogo.lg.jp/kk23/r6rebyu.html>
- ・なお、外部委員会意見の一例は以下のとおりです。

対象事業一覧

1	水素社会普及促進事業	企画部
2	ふるさと兵庫"すごいすと"情報発信事業	県民生活部
3	地方部の介護福祉士資格取得のための実務者研修支援事業	福祉部
4	ユニバーサルツーリズム推進事業	産業労働部
5	ユニバーサル社会づくり推進地区整備事業	まちづくり部
6	地域と学校の連携・協働体制推進事業	教育委員会

1 水素社会普及促進事業

主な外部委員会意見

- ・アウトカム指標の「水素関連イベント等来場者の理解度」については、アンケートで「よく分かった」という回答数をもとに算出しているとのことだが、水素について「分かった」というよりも、「興味を持った」という回答の方が重要なので、アウトカム指標を見直してはどうか。
- ・限られた予算の中で、広く周知・啓発することも良いが、興味のありそうな方にフォーカスしてはどうか。例えば作文コンテスト等を行い、理工系に進む余地のある方たちへの顕彰や見学ツアーへの招待等に予算を活用してはどうか。
- ・普及啓発動画については、将来の水素社会が一体どのようなものか理解できる絵を最初に示した方が、子供たちも興味を持ちやすいし、どのように社会が変わるのかイメージし易いと思う。
- ・新しく動画を作成する際、ターゲットを考えて作成すること。例えば、幅広い方々に水素をPRしたいのであれば、今の若者は特にタイムパフォーマンスを重視するので動画は短くするべき。
- ・神戸市で走行している水素バスの中で、水素に関して何か周知やきっかけを作ることができれば良いのではないかと。

2 ふるさと兵庫“すごいすと”情報発信事業

主な外部委員会意見

- ・アウトカム指標の目標設定が遠いので、この事業で改善することができる指標も設定すべき。Instagramのフォロワー数を増やすことを目標に設定しても良いのではないかと。
- ・アウトプット指標の「すごいすとアクセスユーザー数」は、アウトカム指標とすべき。
- ・HPは文字で伝えるだけでなく、すごいすとへの動画のインタビュー（3～5分程度に編集）を載せる等の工夫をすることで、アクセス数を伸ばすことができるのではないかと。
- ・人材バンク的な役割として、県の他事業で必要としている人材を供給できれば良いのではないかと。現在のすごいすとの方たちも精査し、分野が偏っていないか等を確認しておくべき。
- ・多様な生き方を子どもたちに提示することが大切だと思うが、すごいすとをロールモデルとして提供するチャンスがあればと感じた。

3 地方部の介護福祉士資格取得のための実務者研修支援事業

主な外部委員会意見

- ・対象者を絞ったアプローチを行い、推奨資格として資格取得の動機付けを行ってはどうか。
- ・研修の受講者数を増やすことが必要であるので、介護施設へのアンケート等で、研修受講に対して何が問題となっているかの背景を把握してはどうか。
- ・450時間の研修時間が長く、気軽に受講することが難しいのではないか。各施設にそもそものターゲットがいるのか把握することが必要。
- ・介護福祉士がどれだけ不足しているかの把握が必要。またどの地域で問題があるかを把握した上でのエビデンスに基づいた事業とすべき。

4 ユニバーサルツーリズム推進事業

主な外部委員会意見

- ・ソフト支援の活用が低調となっているが、要件であるチェックリストのクリア項目数のハードルが高いのであれば、20項目以下の施設（小規模な施設等）も対象に広げてはどうか。
- ・ユニバーサルな観光モデルコースを作成し、事例やモニターツアーを発信できれば良いのではないか。
- ・宿だけでなく、観光施設にもフォーカスをあててはどうか。ユニバーサルな観光施設など、ユニバーサルな〇〇を今後増やしていけば良いのではないか。
- ・京都府京丹後市に車椅子で梨狩り等ができる果樹園があり、そのような取組も参考にし、ユニバーサルな果樹園を認定しても良いのではないか。

5 ユニバーサル社会づくり推進地区整備事業

主な外部委員会意見

- ・ 現行のスキームでは新たな活動の展開が難しい。スキームを簡略化するなど根本的な事業の見直しを行い、モデル事業として再度対象地域を絞ってはどうか。
- ・ まずは指定地区の実態を把握し、事業の見直しを行うべき。明石市の好事例等も整理しておくべき。
- ・ 観光振興などユニバーサル化以外のメリットや目的がないと難しいのではないか。
- ・ 協議会という方法が難しくなっている。NPOへの働きかけも今後検討してはどうか。

6 地域と学校の連携・協働体制推進事業

主な外部委員会意見

- ・ 各コミュニティ・スクール間での成功事例の共有、情報発信等が必要であり、アウトプット指標に入れても良いのではないか。
- ・ コミュニティ・スクールの導入校が0%である14市町に対してのアプローチが必要であり、その取組をアウトプット指標に入れても良いのではないか。
- ・ 現状では難しいが、今後コミュニティ・スクールの導入率の先にある社会課題等をカウントし、アウトカム指標とするように検討していくべきではないか。
- ・ 都市部でない但馬の成功事例等について、どのようにしてうまくいったのか要因分析し、その先のビジョンも含めて整理をすべき。